

親の所得が子供の教育水準に与える影響

窪田康平[†]

2012年4月

要旨

本研究は、子供の生まれ年が1986年から1991年という比較的若世代を対象にして、親の所得が子供の教育水準に与える影響を推定する。親の所得の弾性値を推定するためには、子供の在学時における親の所得が必要で、さらに、脱落変数や計測誤差の問題に対処する必要がある。本研究はパネルデータを用いて、子供の在学時における親の所得を得る。脱落変数や計測誤差の問題に対しては、2世代前の経済水準や教育水準を操作変数として推定することで対処する。分析の結果、親の所得が10%増加すると子供の教育年数が1.7%上昇することが示される。貧困家計では、親の所得の10%増加は子供の教育年数を2.5%上昇させ、貧困家計に対する直接的な経済支援の効果が大きいことが明らかとなる。

[†] 山形大学地域教育文化学部講師 〒990-0021 山形市小白川町一丁目4番12号.
e-mail: kubota@e.yamagata-u.ac.jp